

■ パネル・ディスカッション

- 佐藤 嘉倫「計算社会科学による社会秩序の解明」(社会学分野、東北大学教授)
- 数土 直紀「なぜ、秩序形成なのか?—計算社会科学と計算社会学の間」(社会学分野、学習院大学教授)
- 鳥海 不二夫「ソーシャルメディアにおける信頼の構築」(情報学分野、東京大学准教授)
- 上東 貴志「利益相反の分類と社会組織の安定性」(経済学分野、神戸大学教授)

3 ワークショップ

翌日は、(株)ホットリンクの会議室を借りて、公開ワークショップが開催された。社会情報学会研究活動委員会(数理部門)との共催である。

ワークショップは、岡田勇先生(社会情報学会研究活動委員会委員、創価大学)の総合司会のもと、Helbing 教授の講演に始まり、岩井淳先生(社会情報学会研究活動委員会委員、群馬大学)をはじめとする、さまざまな分野にまたがる研究者の報告がなされた。すべて英語で行われたにもかかわらず、参加者も多く、活発な議論がなされた。

概要は以下の通りである：

■ Cordinator : * Isamu Okada @ Soka University

■ 講演 : Dirk Helbing @ETH, Swiss

”From Computational Social Science to Global Systems Science”

■ 報告

- Akira Ishii @ Tottori U, Soc. Phys
“Analysis of social attentions on social networks using mathematical model of sociophysics approach”
- Hiroki Takikawa @ Tohoku U, Soc.
“A Review on the Current Status of Computational Social Science in Sociology”
- Takashi Kamihigashi @ Kobe U,

Macroecon.

“Computational Methods in Dynamic Macroeconomics”

□ Takashi Kamihigashi @ Kobe U, Macroecon.

“Computational Methods in Dynamic Macroeconomics”

□ Kazutoshi Sasahara @ Nagoya U, Info. Sci.

“Collective Behavior of Social Sensors and Its Application to Social Science”

□ *Atsushi Iwai @ Gunma U, Soc. Informatics

“A Design of Agent-based GDSS that Supports Anonymous Communication and the Convergent Process”

■ Discussion

4 今後に向けて

本プロジェクトは、今後も継続的に進めていく予定である。

3ヶ月後の2016年7月2日には、やはり計算社会科学の世界的権威である、コーネル大学のMichael Macy 教授をお招きして、学習院大学中央教育研究棟で、公開シンポジウムを開催する予定である。同じく7月3日には、ワークショップも開催予定であり、一般からの報告も公募の予定である。社会情報学会のみなさまには、是非、ご参加いただければ幸いです。



ワークショップにて (2016.2.28 遠藤撮影)